

ま え が き

これまで減少を続けていた県内の素材生産量や民有林における造林面積に増加の兆しが見えていますが、林業を取り巻く情勢は農山村の過疎化や林業従事者の減少や高齢化、長期的な木材価格の低迷など依然として厳しい状況にあります。

このため、必要な手入れや循環利用が行われないまま放置される森林が増加し、森林の持つ多面的機能の発揮に支障が生じることが懸念されています。

一方、森林に対する県民の関心は高まっており、水源のかん養、県土や自然環境の保全、地球温暖化の防止など森林の持つ公益的機能の発揮が一層期待されております。

このような現状を踏まえ、本県では、森林を荒廃から守り、健全な状態で将来の世代に引き継ぐことを目的として「森林文化のくに・ふくしま県民憲章」を制定し、従来からの森林・林業・木材産業振興施策に加え、平成18年度から導入した森林環境税を財源とした「県民一人一人が参画する新たな森林^{もり}づくり」に取り組んでいます。

本書は、本県の森林・林業・木材産業全般の現状、各種施策、事業の実績及び推移を取りまとめたものであり、林業関係施策の企画立案、実行、検証を始め、今後の行政施策等の基礎資料として広く関係者に活用されるよう願っています。

最後になりましたが、本書を作成するにあたりまして、資料の提供について御協力いただきました関係機関等に対し、厚くお礼申し上げます。

平成19年3月

福島県農林水産部長 松本友作